

## 第16回地域包括ケア推進協議会(H30.7.5)における主な意見等

### ■オアシスプラン2015の取組結果等について■

#### 【要望】

- ・認知症の二次検診を受けるということは高齢者にとって抵抗があると思うので、心理的抵抗を下げるための工夫が必要。

→例えば、認知症講演会では、地元のかりつけ医による講演を行い、軽度認知障害(MCI)のうちに発見できれば、予防の可能性もあること、また、専門医でなくても身近なかかりつけ医で気軽に二次検診ができることを伝えている。また、地域包括支援センターの訪問の場面では、あたまの元気度調査(1次検診)の点数だけでは、認知機能の程度は詳しくわからないので、二次検診は自分の状態を知るチャンスと思って、気軽に受けてほしいことを伝えている。

二次検診の受診勧奨の通知については、二次検診を受けてみようと思うような文面を検討し、変更する予定。

### ■地域包括支援センターの活動状況、事業評価、活動計画について■

#### 【要望】

- ・居宅介護支援事業所として毎年、地域包括支援センターの意見を求められて、市に提出しているが、自分のところの圏域の包括の評価がどうなっていて、今年はここに力を入れたいとか、居宅介護支援事業所へのフィードバックがないので、よく分からない。あくまでも地域づくりや人づくりが目的なので、自己評価や居宅介護支援事業所の評価はもちろん大事だが、取り組みが地域にどのように還元されて、地域の人にどのように喜ばれたのかという評価が大事なので、その点をもっと分かるようにするとよい。
- ・地域包括支援センターの情報についても、しっかりした情報があるのだから、地域密着型サービスと同様に、ホームページ等で情報発信してもいいのではないか。

→地域住民が評価を行うことは難しいが、介護サービス情報公表システムには、基本情報について掲載している。

また、委員の意見を受けて、市ホームページ(の包括支援センター枠の中)に、各包括支援センターの年間活動計画を掲載し、誰もが閲覧できるようにした。

#### 【意見】

- ・高齢者が増えていく中で、いろいろな方の実態把握をして、一度支援が始まると、終わりが無いという状態で、自立をどこで促して、どこで包括の関わりを終結させるかということが13包括の共通の課題だと思っている。